

第 15 回 青森県小児糖尿病サマーキャンプにおける事業

職・氏名： 助教 伊藤耕嗣

所属学科： 看護学科

I. 事業の背景

小児糖尿病サマーキャンプは、公益社団法人日本糖尿病協会が1967年から全国各地で主催している事業である。青森県においても同様に、1型糖尿病の子どもたちを対象に3日間のキャンプを実施している。キャンプの目的は、子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、自己管理に必要な糖尿病の知識と技術を身につける事である。また、同じ仲間と親しくなること、励まし合える仲間づくりの場となっている。過年より、本学看護学科の教員と学生が参加しキャンプの支援を行っている。

II. 目的

本事業の目的は青森県小児糖尿病サマーキャンプへの参加を通して、I型糖尿病の子どもや親が、キャンプを楽しみながら日常生活上の注意点やI型糖尿病の知識・技術を身に付けられるようサポートし、貢献することである。

III. 参加者

1. 大学

看護学科4年生 3名、看護学科教員 1名

2. キャンプ全体

キャンパーの子どもとその親、ヤングの会（キャンパーOB・OG）、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、医療メーカー、保健大学看護学科教員、学生等、約110名

IV. 事業の内容

1. キャンプ期間中におけるキャンパーの子どもたちへの体調管理面のサポート
2. レクリエーションの企画と運営

V. 事業の効果

本事業の目的は、「子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身に着ける」ことである。そのために様々な企画が実施され、学生と共に企画の運営やサポートを実施した。その結果、子どもたちは日ごろ実施している知識や技術を再確認し、同じ悩みを持つ仲間と話し合う機会を持つことで、子どもたち自身が励ましあい、仲間を作る機会となった。I型糖尿病の大人の参加もあり、子どもたちは年齢に応じた相談ができていた。また、親が相談できる企画もあり、糖尿病の専門医や看護師と話すことで、日常生活上の疑問や不安について相談することができていた。

以上のことから、本学の看護学生が今後も参加することで、子どもたちはキャンプを楽しみなが

ら各年代に生じる悩みや不安に寄り添うことで、子どもたち自身が今後も自己管理を継続していくための支援ができると考えられる。

